

<p>教育・保育理念</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分も友だちも大切にできる心の育成</li> <li>・学びの芽の育成</li> <li>・自分の可能性や能力を十分に発揮できる力の育成</li> </ul>
--

<p>園の重点項目</p> <p>一人一人の人権を大切にしながら、子どもが安心・安全に過ごせるようにし、主体的に生活や遊びを取り組む力を育む</p>
--

<p>令和5年度 重点内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体性と自己肯定感を育む</li> <li>・楽しく体を動かし健康な体作りをする</li> <li>・幼保小と連携し学びと育ちをつなげる</li> <li>・地域とのつながりを深める</li> <li>・職員の資質向上をめざす</li> </ul>
--

重点内容	重点内容に向けた具体策	評価項目	自己評価	とも園関係者評価
主体性と自己肯定感を育む	日々の生活や遊びの中で一人一人の主体性や自己肯定感が育まれるような教育・保育の保障や保育教諭の関わりを大切にしている	・園児の表情や行動を温かく見守りながら思いを受け止め自尊心を育てる ・園児の意欲や探究心などを引き出す保育教諭の関わりを大切にしている	A ・一人一人の発達や姿、気持ちや思いを受け止め、生理的欲求を満たし情緒の安定に繋げた。ありのままの園児の姿に寄り添うことで自尊心を育み、愛着関係を築くことができた。 ・保育業務総合支援システム(KV)で日々の教育・保育内容の配信をしたり、保護者と共に姿を伝え合ったりしながら、園児の成長を喜び合えた。	A ・年齢に応じてきめ細やかな指導をしている。 ・気持ちや思いを受けとめながら寄り添うことで、子どもたちに安心感を与えている。
	保護者と園児の育ちを共有し、教育・保育内容を園だより・クラスだより・フォトニュース・ホームページで知らせ、一緒に子育てをする	・保護者に教育・保育内容や園児の姿を工夫して伝え成長を共有する ・家庭環境や保護者のニーズを理解し、共に子育てしていく視点をもち信頼関係を築く	B	
な動楽する 楽しく体を動かすこと	リズム遊びなどを継続して行い体を動かすことの楽しさを感じ体力向上を図る	・体を動かす遊びに定期的に取り組み心と体をほぐし体幹を鍛える ・園内外の環境を常に整備し安全点検や安全教育を行う	A ・安全な環境の元、園庭や遊戯室で年間を通し、体を十分動かし体力作りを継続することができた。リズム遊びを通し異年齢の交流の機会を作ることができた。	A ・コロナが明け、外での活動が多くなり、体幹や体力がついてきた。
幼稚園と連携し学びを深める	小学校の参観に行ったり、とも園に来てもらうなどお互いの教育・保育を知る機会を持つ	・小学校児童との交流、小学校職員との意見交流等連携を通して教育・保育の質の向上を図る	B ・体験学習を通し、とも園の役割について児童や小学校職員に伝えることができた。児童と園児の貴重な交流の機会を持てた。 ・小学校参観に行くことは計画できなかったが、次年度に向け計画したい。また研修などを通じ教育・保育施設との連携も継続していきたい。	B ・子どものやりたい事を大切に、個性を伸ばすようにしている。 ・小学生児童との交流は幼児だけではなく、児童にも好影響をもたらしている。
	園内での教育・保育を通し、一人一人の力を育む	・地域の教育・保育施設と情報交流や課題を共有し、連携して子育て支援をすすめる ・小学校以降の学びにつながることを見通して、乳幼児期に育てたい力を育む	B	A ・幼保小の連携が、今後カリキュラムの連携も含めた線の繋がりができればよい。
な地が育める 地域とをの深める	地域のサロンに参加したり、園庭開放やほっと預かりなどで交流を行う	・地域の施設を訪れ関係機関や団体等の協力、連携を図り子育て支援をともに行う ・地域の教育・保育施設と情報交流や課題を共有し、連携して子育て支援をすすめる	B ・関係機関との情報共有をして、地域の子育て支援を実施した。 ・お話会やお茶会など地域の方の協力の元、貴重な文化体験ができた。	A ・地域とのつながりを大切に、地域に愛されている。
	地域の方とお茶会などを通して交流の機会をもち、日本の伝統に触れる	・地域の方に来ていただき、文化や地域の特性を生かした教育・保育内容を実施する	B	A
向職員の資質を高める	園内研修などで教育・保育実践を振り返り、教育・保育の質の向上を図る	・理念や方針、教育・保育課程、指導計画について職員同士が共通理解する ・研修などを通じ専門性の向上に努めるとともに自己研鑽を積極的に行う	B ・あらゆる分野の研修に積極的に参加し、個々のスキルを高めたり、伝達研修を実施したことで園全体の教育・保育の質の向上に繋がった。	A ・子どもたちの環境を整えることに力を注いだ。

今後の取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
年齢の系統性を重視した教育・保育内容の実施	乳幼児期の発達段階を正しく理解し、個々の姿を見極めた教育・保育内容を計画する。職員間の認識を共有することで0歳児から就学前児までの見通しを持った教育・保育内容の実施の中で統一した援助や働きかけを行う。
保護者との信頼関係を構築する	日々の教育・保育内容について、保護者に可視化できるよう情報発信を継続する。園児の姿を共有したり保護者の思いや悩みに寄り添ったり、保護者との関係構築に向け職員から積極的に関わりを持つ。

<p>園長より</p> <p>年齢の系統性を重視した質の高い教育・保育の実現に向け、幼保小との線の繋がりを強化していく。保護者にも可視化し安心感・信頼感を構築する。</p>
--